

舞鶴港和田地区国際物流ターミナル整備事業

費用便益の概要

便益

項目	区分	単位当りの便益			便益(代表年)	
			単位	備考		単位
利用者便益	輸送コストの削減	56	千円/TEU・年	近傍の舞鶴港を利用できることによる輸送コスト削減(コンテナ)	11	億円/年
		3.1	千円/トン・年	喫水調整・陸上輸送距離の短縮による輸送コスト削減(珪砂)	3.3	億円/年
		5.9	千円/トン・年	船型の大型化による海上輸送コスト削減(ソーダ灰)	2.0	億円/年
		0.6	千円/トン年	陸上輸送距離の短縮による陸上輸送コスト削減(PKS)	0.38	億円/年
		2.4	千円/トン・年	船型の大型化による海上輸送コスト削減(木質チップ)	1.5	億円/年
		2.9	千円/トン年	陸上輸送距離の短縮による陸上輸送コスト(コークス)	0.75	億円/年
震災時便益	輸送コストの削減	1,914	円/TEU・年	大阪湾地域における大規模地震発生時におけるコンテナ物流機能のリダンダンシーの確保による発災時の輸送コスト削減(震災時貨物) ※発生確率考慮後	1.2	億円/年
移動便益	輸送・移動コスト削減	34	億円/年	輸送経路の確保による輸送・移動コストの削減	34	億円/年
	交通事故削減	0.31	億円/年	通行の危険性の低減による事故損失額の減少	0.31	億円/年
残存価値	残存価値	55	億円	土地、上屋、荷役機械等の残存価値	55	億円 (最終年)

* 便益の算出にあたっては、「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル(令和6年6月)」を参照

費用

費用項目	建設費、管理運営費 等
事業の対象施設	岸壁(水深14m)、泊地(水深14m)、岸壁(水深12m)、ふ頭用地、道路 等